

非鉄金属レポート

◆ロンドン金属取引所（LME：London Metal Exchange）～2005年9月の動向

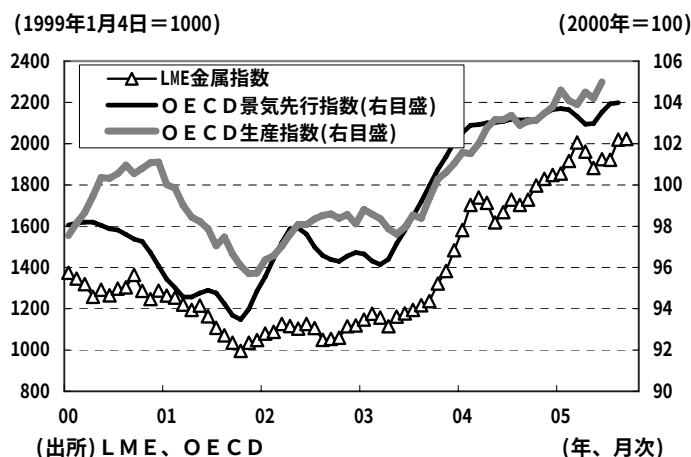
【概況】

9月の非鉄金属市況は、銅と亜鉛は高値を更新し、アルミニウムは下落後に持ち直し、ニッケルは下落、となった。非鉄市況全般の動向を表わすLME金属指数の動きをみると、9月2日に2064.9をつけた後、調整気味に推移し16日には1934.1まで低下したが、その後は上昇に転じ、10月6日には2087.5と過去最高を更新している。

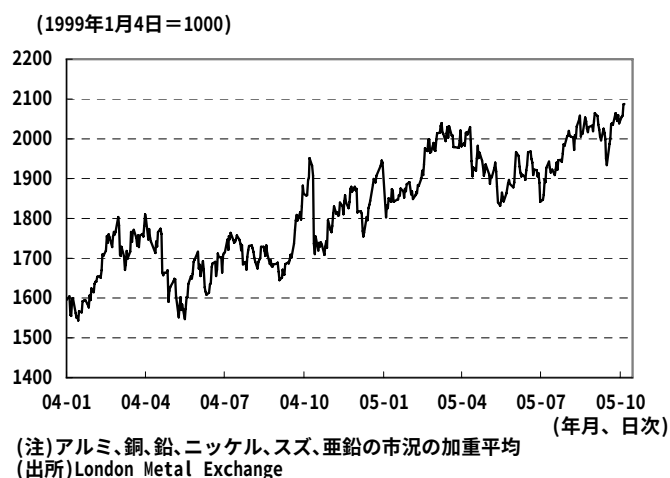
9月前半の下落は、米国を襲ったハリケーン「カトリナ」の影響で世界景気が失速する懸念が生じたことが背景だとみられる。しかし、その後、米国経済の堅調さが確認されるとともに、全般的に市況は持ち直しに転じた。9月下旬に再度、米国にハリケーン「リタ」が上陸しても、今度は、アルミニウムの生産が停止することへの懸念やインフラの復興需要を期待して、むしろ相場は上昇する動きになった。

足元では、商品市況全般の押し上げ役であった原油相場がやや調整気味であるのに対して、非鉄金属市況は銅などを中心に上昇を続けている。世界景気の底堅い推移が見込まれる中、総じていえば非鉄金属の需給はタイトな状態が続いており、ストライキや事故などにより供給懸念が強まると、市況に上昇圧力がかかり易い状況が続いている。

図表1．LME金属指数と世界景気



図表2．LME金属指数(日次データ)



【品目別の動向】

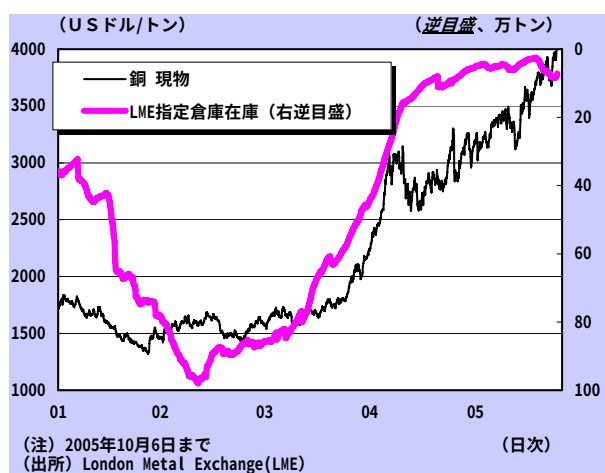
①銅～調整後、高値更新

銅相場は、一旦調整が入ったものの、再び高値更新が続いている。鉱山でのストライキなどを材料に9月2日に高値をつけた後、在庫が増加したことや米国ではハリケーン「カトリーナ」被災により景気失速懸念が出たことから1トン3600ドル台へ下落した。下旬にかけて、ハリケーンからの復旧が進み始めると、配線などを中心に復興需要への期待が高まり、ハリケーン「リタ」の上陸もむしろ復興需要期待を高めた。相場は上昇に転じ、足元では4000ドルに迫っている。

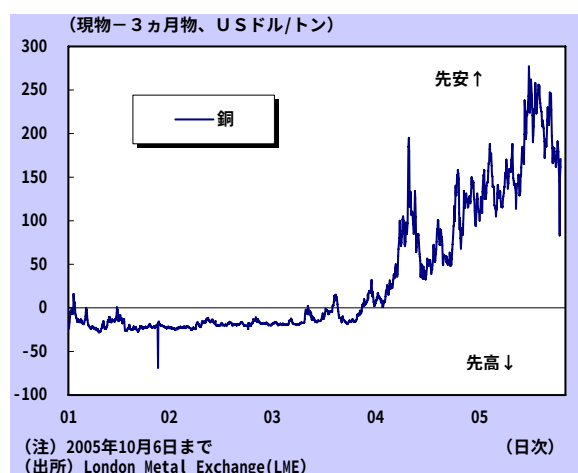
7月1日から続く米国のアリゾナ州とテキサス州でのストライキは、精錬会社の倒産申請を経て依然として続いており、需給逼迫要因となっている。ストライキが解決しても、緩やかに需要が拡大することを見込めば、需給の逼迫感はあるであろう。しかし、需要サイドでは、高値が続いていることからパイプやケーブルに、プラスチックやアルミニウムへの代替を模索する動きも始めている。来年になると、チリやオーストラリアの鉱山開発が進むことや中国の精錬所の増加が続くため、需給の逼迫感はある可能性がある。

図表3. 銅

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



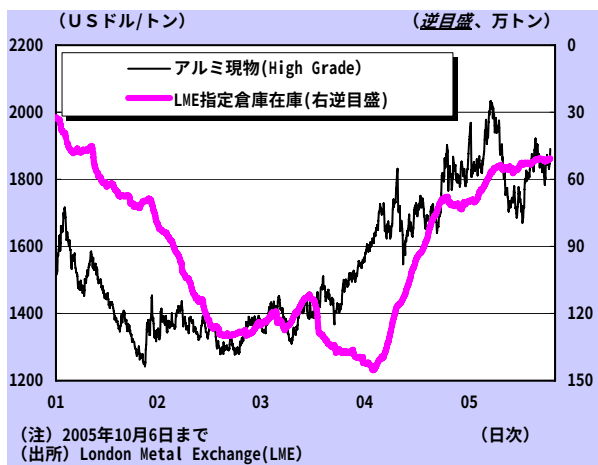
②アルミニウム ～ 下落後、持ち直し

アルミニウム相場は、中国の供給力拡大への懸念などを背景に他の金属に比べ低調な状態が続き、一時1700ドル台まで下落した。しかし、下旬には、ハリケーン「リタ」の上陸に備えて、米国テキサス州の精錬所が停止したこともあり相場は回復に転じた。その後も、他の非鉄金属の上昇と連動する形で上昇し、9月上旬の水準まで戻している。

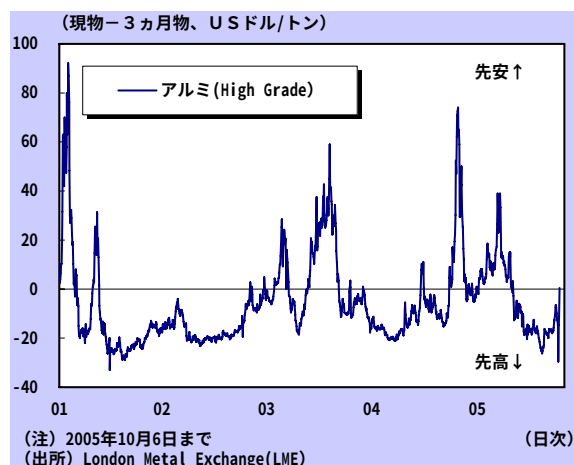
他の非鉄金属に比べ足元の需給は緩和気味であるが、缶、窓のサッシ、自動車や航空機向けなど需要は拡大している。一方で、電力料金高で競争力を失った欧州の供給力が大幅に減少したことや中国政府による生産抑制の動きもあり、長期的には需給は引き締まるとみられる。相場が、底割れする懸念は小さいであろう。

図表4．アルミニウム

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物－3 ヲ月物）の推移



③ニッケル～再び下落

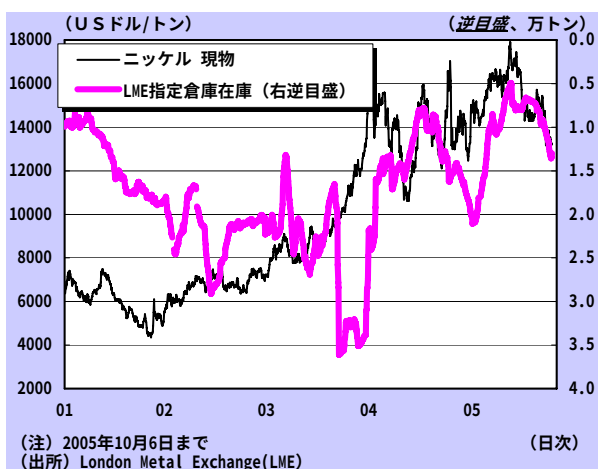
ニッケル相場は、8 月半ばにかけて世界景気が底堅いことや航空機用の超耐熱合金(Superalloy)向けの需要増の思惑が出たことを背景に持ち直したが、その後は、下落基調に転じている。

中国のステンレス鋼の輸入制限やブラジルでのニッケル鉱脈発見との報道があったほか、足元ではロシアなどの増産により供給が需要を上回り、需給が緩んでいる。LME 指定倉庫の在庫は 5 月をボトムに増加に転じている。

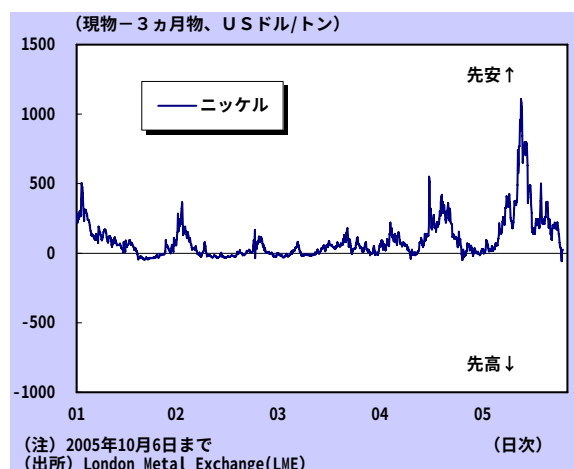
足元の需給の緩みから現物を中心に価格が下落しているが、主用途であるステンレス鋼向けの需要は増加を続けると見込まれ、下値は限定的であろう。中国の業界団体からは、中国のステンレス鋼生産は 2 年後には日本を抜いて世界一になるといった見通しが発表されている。

図表5．ニッケル

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物－3 ヲ月物）の推移



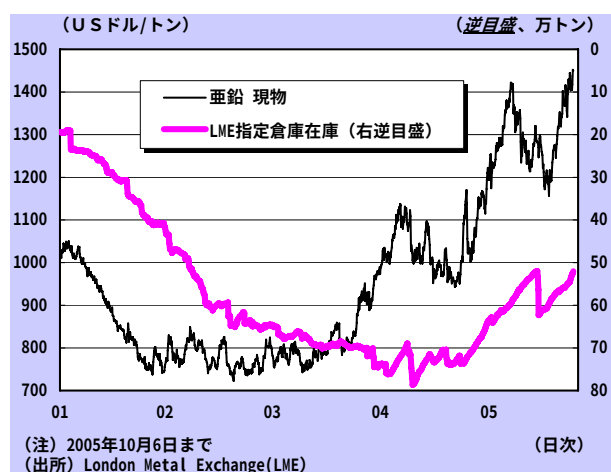
④亜鉛～上昇基調

亜鉛相場は7月中旬を底に上昇基調に転じている。7月19日よりカナダの精錬所でのストライキが続いていることや、9月上旬には、ニューオーリンズ市内に24ヵ所あるLME指定倉庫からの亜鉛の運び出しがハリケーン被災により出来なくなったことといった特殊要因が相場を押し上げている。

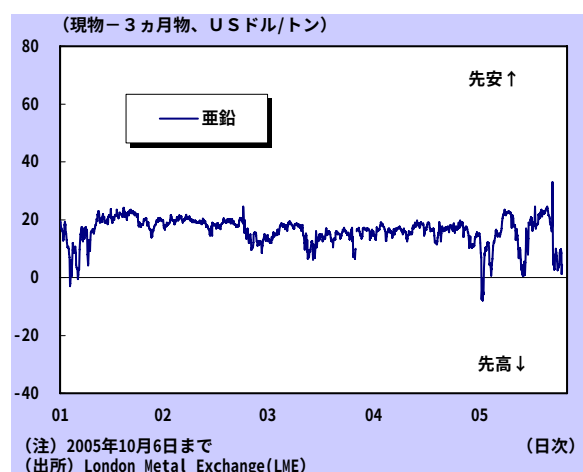
また、主たる用途である自動車や電気機器のメッキ向け需要が底堅く推移しており、地域別には、各国製造業の生産拠点が集中する中国の需要が伸びているようだ。2005年は需要が生産量を上回るとみられている。インドの精錬会社が2006年より新設備での生産を開始するなど供給増の動きも出ているが、引き続き中国などの需要の伸びにより、需給は引き締まる方向とみられる。当面、相場は底堅い動きが見込まれる。

図表6．亜鉛

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



【問い合わせ先】

U F J 総合研究所 調査部（東京） 芥田
E-mail : tomomichi.akuta@ufji.co.jp

※本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。